

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2799100108 | | |
| 法人名 | (株)ケア21 | | |
| 事業所名 | グループホームたのしい家木川東 (1階) | | |
| 所在地 | 大阪市木川東1-5-13 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年5月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年7月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2799100108-00&PrefCd=27&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成28年6月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・木川東では日々の散歩や花見・夏祭り・敬老会等季節に合わせたイベントを開催又地域のボランティアさんに日舞を披露してもらっています。
 ・認知症ケアの専門職としてスキルの向上の為年間研修計画を企画し月1回研修を行っています。
 ・今持っている身体能力を維持するよう毎日の体操・食事前の口腔体操を行い又できる事で役割を持ち生き生きとした生活を送れるよう支援をしています。
 ・我が家のように自由で楽しい生活を送れるよう支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「認知症になっても、その人らしく生きる」という理念のもと、その人らしい暮らしを第一に考え利用者のことを知ることから行きたい場所への外出や食事の準備や掃除などのできることに携わりながら過ごせるよう支援しています。敬老会や餅つき、祭り等の地域行事への参加やホームの夏祭りに多くの地域の方の参加を得ることによってホームの事を知ってもらうことができ、散歩の際には気軽に声をかけてもらったり、紫陽花などの季節の花をもらうこともあり地域交流が徐々に深まっています。また、医療体制の連携も充実が図られ、利用者や家族の希望を大切にし医師や訪問看護師と話し合いを重ね体調の変化などにも対応でき看取り支援も行っています。職員間は利用者を中心に考え積極的に意見を出し合い、注意し合いながらサービスの質の向上に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 木川東独自の理念を作成し掲示している。又理念を共有し実践につなげている。見直しの話し合いをしているが、現段階では今のままでいいとの意見が多かった為継続をしている | 職員全員で話し合い決められた「認知症になっても、その人らしく生きる」という理念を掲げ、昨年度見直しについても検討し継続しています。職員は迷うこと等何かあった時には理念に立ち返り、個々の利用者を理解することに努め、その人らしい暮らしを第一に考え理念の実践に向け取り組んでいます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | お祭り時に神輿が施設まで来てくれたり、又地域のイベントや日舞のボランティア等交流を深めている。夏祭りは外で行い地域との交流を深めている | 町内会へ加入し回覧板等で敬老会や餅つき、祭り等の行事を知り参加するなど、地域へ積極的に交流するように努めています。淀川花火大会に合わせて夏祭りを開催し、地域の方の参加も得ており利用者やホームの事を知ってもらい交流が深まっています。また地域の米屋を利用したり、散歩で近隣の方とあいさつを交わし花をもらうなど、日常的に交流しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 満床の時でも問い合わせがあった場合は、見学に来てもらい、認知症の事や、グループホームの内容を説明をしている。近隣の方も気楽に見学できるようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催している。サービスの状況報告や事故報告えを行い、意見や要望があったときは次回に改善するようにして報告をしている。又不安に思っていることを家族同士で話し合ったりしている | 運営推進会議は、利用者や家族、地域包括支援センター職員などが出席し、2か月に1回開催しています。利用者状況やヒヤリハット、行事報告だけではなく、積極的な意見交換も行われています。参加者のアドバイスにより利用者の参加に繋がったり、家族からの意見から看取り支援についてのアンケートを行い支援に活かしています。参加していない家族にも便りで会議の内容を伝えていきます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 淀川グループホーム連絡会にて市町村からの通達などが行われている。 | 淀川区グループホーム連絡会に参加し、行政からの情報を得ています。市が主催する研修会などにも参加し、より良い協力関係になるように努めています。生活保護受給者の受入れについて区の窓口で直接聞きに行く等連携できるように取り組んでいます。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年1回の身体拘束についての研修を行っている。職員も身体拘束に敏感になっており、職員同士で指摘し合っている。フロアのカギは掛けていない | 社内で行われる身体拘束についての研修を受講し、全職員が共通の認識を持ち、取り組んでいます。言葉による拘束についても職員同士で注意し合っています。ホーム内フロアの鍵は開錠し、玄関の鍵は家族の希望もあり防犯のため施錠していますが、外出希望の利用者には寄り添い拘束感を感じないよう支援しています。 | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年1回の虐待防止の研修をおこなっている。身体にあざなどがあった時は検証し、必要時はチェック表を作成し防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 本社などで成年後見人の研修を受けている、又当施設に成年後見人を利用している方が1人いる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や契約解約時は家族の疑問点に答えている。又改定時は、説明を行い同意書を貰っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置している。運営推進会議で家族様の意見・要望を聞き、次回に経過報告をしている。 | 意見箱を設置したり家族の面会時や電話でもコミュニケーションを図り、意見を言いやすい環境づくりに努めています。要望を受けて食事の時におしぼりを全員に配ったり、遠方に住む家族に服用薬の内容を伝えたりするなど、サービスや運営に活かしています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月2回の職員会議で意見交換を行っている。 | 全体の職員会議とフロアごとの会議の其々を月1回開催し、勉強会をしたり積極的に意見交換をして業務改善に繋がっています。会議以外でも気が付いたことは、日々意見や提案を出し合い連携が取れるようにしています。管理者は年2回個別面談を実施したり、職員の様子を観て随時面談を行っています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 業績一時金や誰伸び制度などがあり、毎年給料が上がっている。パートの労働時間は本人の意向どうりに又全般に有給も取れている。サービス残業は行っていない。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 基礎研やリーダー研修・実践者研修・コーチング研修等積極的に研修を受ける機会の確保をしている。 | | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同区のグループホームの会議の参加をし情報交換、意見交換をしている。又同会社のグループホームとの研修・交流を行っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス前に生活歴や、性格・嗜好等を把握し本人が安心して暮らせる関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安・疑問・要望に応え関係づくりを行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 今何が出来るのかを把握し出来る事の継続を又支援すれば出来る事を入居者様と共に行う。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の出来る事の維持・継続をするために職員が寄り添うように見守りをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月お便りで状況報告や面会時での本人の様子などを家族が安心できるような状況報告をするようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人等が訪問されている。又個別対応で行きたい場所に可能なら対応している。 | 近隣から入居した利用者には友人の訪問が多くあり、来訪時にはゆっくり過ごしてもらえるよう支援しています。また、週一度の家族との食事や冠婚葬祭への参列などがスムーズにできるよう個々に応じて支援しています。野球場へ行く計画もあり、職員は利用者の馴染みの場所や人を知ることから、これまでの関係が途切れないように努めています。 | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 意志疎通の困難の入居者様には職員が間に入り関係を良好に保つようしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 家族様によっては退去後も訪問にきてくださっていますが、先方より連絡がない限りは援助等は行っていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その人らしさを大切にしている。自己決定を優先している。 | 入居時にこれまでの暮らしや生活習慣、本人や家族の意向を確認し、フェースシートに記載し職員間で情報共有しています。入居後のコミュニケーションの中で知り得た情報を少しずつまとめています。思いや意向の把握が困難な場合は、日々の生活の中での気づきを大切にして、本人の立場になって検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 居室担当者にセンター方式・気づきシートを用いこれまでの暮らしの把握をしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタルチェックや様子観察を行い、出来る事や支援すれば出来ることの把握をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族や本人の意向や要望・課題等カンファレンスや朝・夕の申し送り時に気づきを話し合い計画に繋げている。 | 本人や家族の意向のもとアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し、介護計画を作成しています。毎月のカンファレンスやモニタリングなどを行い、大きな状況の変化がなければ、おおむね3ヶ月～1年ごとに見直していきます。見直しの際には、再アセスメントを行い家族や医師、看護師から意見を聞き、サービス担当者会議を開き介護計画に反映させていきます。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気づきや機嫌・工夫・バイタル・排せつ・水分量・摂取量・服薬・室温・湿度を記録し情報を共有している。 | | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ニーズには柔軟に対応することができるものではないものがあり会議等で共有しています。また訪問リハビリやマッサージを取り入れています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域密着といえど個人の地域に即した地域資源を利用するまでには至っていません。地域のボランティアさんは利用しています。また、お米や弁当の発注は地域の商店にお願いしています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携医は月2回の往診を実施。提携医とは個別に契約を結んでいただき納得を得られています。個人によってはかかりつけ医を継続されています。 | 入居前からのかかりつけ医を継続することも可能であることを説明しています。提携医は24時間対応で、個々の利用者の必要に応じて月1~2回の往診があります。夜間対応可能な訪問看護とも提携しており、週1回の健康管理を受け随時相談しています。希望者には訪問歯科による口腔ケアも受けることもできます。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 健康面等日頃の気づきを訪問看護師に伝え往診医と連携を取りながら、適切な処置を看護師の指導の下行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 面会時に情報収集を行い家族・往診医とも連携しながら早期退院が出来る様努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 往診医・家族・施設で看取りの方針を話しあい、入居者様・家族の意見を取り入れている。又家族様の看取りについての同意書を貰っている。 | 重度化や終末期の支援については、本人や家族の意向を最優先し、希望があれば看取りの支援も行っています。重度になれば医師より家族へ状況の説明があり、看護師と連携し、希望にそって自然な最期を迎えられるように支援しています。職員は年2回、看取りについて研修を受講しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命の講習や緊急対応の研修を行っている。又緊急フローチャートを掲示している。 | | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を実施している。全職員が災害時に対応できるよう努めている。 | 年に2回避難訓練を実施しています。昼夜を想定し、その内1回は消防署の立会いの下、内容は通報や初期消火活動、避難誘導などを実施しています。また、地域の防災訓練に参加したり、防災に詳しい町会長にアドバイスをもらうこともあります。備えとして防災グッズ、米、水など準備しています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 生活歴や性格を把握しその人に合った人格を尊重する声掛けを行っている。 | 法人内で接遇マナー研修や個人情報保護等のコンプライアンス研修を実施しています。利用者と意思疎通ができるようにわかりやすく安心する言葉遣いを心がけ、職員同士も注意し合い適切な声掛けや対応に努めています。トイレや入浴の支援についても、さりげなく羞恥心に配慮しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 要望・希望・意向を把握し自己決定できる支援を行っている。自己決定が困難な入居者は選択ができるよう配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者主体を第1に考え入居者が望む生活ができるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回の訪問理容を利用している服装は本人の好みを尊重しているが、季節に合わない時は、自尊心を傷つけないような声掛けをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や盛り付けを共に行い、時間になれば、役割として日常的に行っている。 | 栄養士が考えた献立のレシピと食材が業者より届き、利用者は可能な範囲で、食材を切ったり盛りつけなどを一緒にしています。職員も同席し会話しながら食事を楽しめるようにしています。おはぎやわらび餅などの手作りおやつや月に1度のリクエスト食、2~3か月に1度の外食、年に1~2度天ぷらやすし職人に来てもらってホームでのイベント食など工夫を凝らして支援しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量は記入して職員が把握し摂取困難時は、摂取できるような工夫をしている。 | | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎週歯科医の往診があり、口腔ケアの指導を受けている。往診がない入居者様は、本人に応じた支援をしている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックを記載し排泄の自立を維持できるようまた家族様の金銭の負担が減少できるよう支援を行っている。 | 立位のできる利用者についてはトイレでの排泄を基本に、排泄チェック表を利用し把握した個々のリズムで支援し、しぐさや表情を見ながら声掛けや誘導を行っています。また、状況に応じておむつやパッドなどの排泄用品の選択や支援方法を検討し、状況が改善し布の下着に変更した方もいます。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の水分量や便の回数を記載し、便秘時は往診医の指示で、対応をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日設定をしているが、本人の要望・意向に沿うように対応している。 | 少なくとも週2回は入浴できるように支援し、時間帯も可能な限り希望に添えるように取り組んでいます。湯も1人ずつ入れ替え、シャンプーなどは希望の物を持って来て使う方がいたり、足浴も実施しています。菖蒲湯やゆず湯などの季節湯を楽しむこともあります。拒否される方にはタイミングを図り声をかけたり日を変えて対応しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の状況に応じ支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の支援や症状の変化の確認を行っている。又看護師が薬の副作用など確認し職員に伝えている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事の準備や洗濯たたみ／干しを役割とし行っている。また月1回のイベント毎日の散歩・季節の行事等楽しんでもらえるよう支援している。 | | |

グループホームたのしい家木川東(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎日散歩を希望する入居者様と他の方は週2回は散歩・喫茶店・買い物希望する入居者様は行けるよう支援している。また個別対応の一環として、職員と行きたいところに行けるよう支援をしている。 | 近所への散歩などは日常的に出かけ、外食や初詣や花見などの支援を積極的に行っています。個別や少人数で、車でゆり園や買い物等の外出も支援しています。外出があまり好きではない利用者には、外気浴などをして気分転換できるよう配慮しています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持している方はほとんどおられず、家族様より施設に預けたお金を必要時使用しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を掛けたいと訴えがある場合は家族に了解をもらい電話をしている。またはがきや手紙は本人の希望どりにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を感じてもらうように季節の装飾つくりを共に制作している。 | 共有空間にはくつろげるソファを置いたり、季節ごとの花や切り絵を飾り季節を感じられるようにしています。知人が訪問してきたときなども共用空間で過ごすスペースもあります。空気清浄機を置いたり、夜間に床の拭き掃除をして、清潔な環境で過ごせるように努めています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファを設置しており、自由に気の合った同志や職員で話をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人や家族の好みで、使い慣れた家具や布団を設置しており個々に個性が出ている。 | 使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫等をはじめ、大切にしている仏壇や写真など利用者の馴染みの物を持参し、今までと同じように暮らせるように配慮しています。以前の生活習慣に合わせ畳を敷いて布団で休むことも可能です。毎日の掃除はほうきと塵取りを置き可能な利用者は職員と一緒にしています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来ることや支援したら出来ることを把握し自立できる生活を送れるよう支援している。 | | |